

下村脩氏が特別招聘教授に



下村脩氏(左)と稲葉一男センター長(右奥)(10月17日、静岡県下田市で)＝下田臨海実験センター提供

下田臨海実験センター

研究機能の拡充進む

筑波大学の海洋研究の拠点、下田臨海実験センター(静岡県下田市)の研究機能の拡充が急速に進んでいる。10月には2008年にノーベル化学賞を受賞した下村脩氏が筑波大の特別招聘教授に就任。一方で、3月には最新鋭の調査船「つくばⅡ」が完成。9月には老朽化した研究棟も改修されたことで、今後の研究成果が期待されている。下村氏は、継続的に筑波大の研究活動への助言をしていく予定で、同センター長の稲葉一男教授(生環系)は「下村氏のサポートを受けながら、(下村氏が提唱する)生物学と化学を融合させた海洋研究をさらに進めていきたい」と話している。

(平嶋健人⇨社会学類3年、12面に関連写真)

■下村氏、特別招聘教授に就任

10月24日付で就任した下村氏は来在任で、筑波大の研究活動は行わない見込みだ。しかし、来日した際に筑波大で講演を行った。筑波大の生物学や化学分野の研究内容・方針について助言する。また、生物学と化学を融合させた学問分野「ケミカルマリノバイオロジー」の研究グループに所属し、研究へのアドバイスを行う予定。

特別招聘教授の就任に伴い下村氏は10月16・17日、

下田臨海実験センターを訪問。研究室や実験設備を見学し、教員や学生から研究内容について説明を受けたほか、稼働を始めたばかりのつくばⅡに乗船。職員や学生と共に、捕獲用ネットを使って海洋生物を採集観察した。

懇親会では、同センターの学生に「困難があっても地道に研究を続け、最後まであきらめないことが大事だ」と話したという。

■新型調査船が完成

老朽化した海洋調査船「つくばⅠ」の後継として造船された「つくばⅡ」が今年3月完成した。

つくばⅡは、水深約1500メートルまでの海中・海底の様子をリアルタイムに映し出すことができるロボット「ROV」や、海底の地形を三次元で計測できる探査機を新たに導入。ダイバーが潜水できなかった深海・海底環境の調査が初めて可能となった。海洋生物

の生態環境を詳細に観察することで、下田の海の生態系を明らかにできるとい

う。稲葉教授は「調査船の性能は日本でもトップレベル。海底地形の状況や、ROVの映像を分析してターゲットを絞ることで、珍しい生物を捕獲できる可能性もある」と期待を込めた。